2019-2020 年度今治ロータリークラブ週報 No.28

第 ２８ 回 例 会 報 告（2月２０日）

【 出　席　報　告 】

・会員数　５３名　・出席数　３６名　・欠席数　１７名
・当日出席率　７２．００％　・前々回修正出席率　９８．００％
＜欠席会員＞原、合田、平田、小堀、楠橋、坂本、田﨑、田中、渡辺、八木(真)、八木(正)、八木(伸)、矢野、吉田
〔免除会員〕青野(明)、檜垣(巧)、光藤
<1/30 欠席補填>(1/21 今治南)阿部、原、吉良、尾越、岡田、岡本、田﨑、八木(伸)、矢野　(2/3 今治北)片山、小堀、眞鍋、八木(正)

◇会長報告・IM ご参加の皆様、ありがとうございました。
・弁護士法人 東町法律事務所 弁護士 佐々木達耶(ささき　たつや)氏の入会手続きが規定の段階を経て理事会で承認されました。異議のある方は 7 日以内に申し出て下さい。

◇幹事報告・清掃奉仕・早朝例会のご案内：3 月 26 日(木)西部丘陵公園(しまなみアースランド)を清掃。早朝 6 時 30 分清掃開始。7 時例会。パン・お茶をご用意しております。雨天の場合は例会のみ開催します。ロータリーバッジの着用をお願いします。

IM報告

◆片山泰志会員(全体)：2 月 15 日(土)リーガロイヤルホテル新居浜にて開催。9 クラブ 251 名の会員登録があり、当今治 RC からは 13 名が参加した。新居浜南 RC がホストクラブとなり、高橋会長の点鐘でスタート。今回のテーマの「人生 100 年時代」は、女性の立場から選んだもの。これまでほとんど女性の手に委ねられていた介護について共に考えた。参加された皆さんは、講演、フォーラムと大変熱心に話をされ、多くの方が真剣に聴講していた。私自身、今回の IM に参加し、早速、一人暮らしをしている実家の母親に連絡した。もう少しまめに顔を出そうと反省した次第。

◆廣川怜史会員(基調講演)：「人生 100 年時代－老老介護・認知症になっても楽しく看る」新居浜南 RC の伴野かよ子会員が講師を務め、“バリデーション”と“コミュニケーション”をキーワードに講演された。まず、介護業界の現状と問題点について話され、介護士不足により閉園する施設が増えているなか、100 歳を超える高齢者は全国で約 7 万人、10 年前から倍増している状況。死ぬ間際ではなく、早めに予防の段階から訪問介護を利用する事が寝たきりを防ぐ。また、ひきこもりなどで 80 歳の親が 50 歳の子供を支えている 8050 問題も対策が急務。そんな中、認知症介護バリデーションはその一つの手法で、作業プロセスが適切であるか科学的に検証する事。要介護者と向き合い、共感することを基本にすべて受容し、コミュニケーションを取ろうというもの。例えば認知症患者の方の「感情」は最後まで失われることなく残るため、優しい看護師さんの食事は進んで食べるが普通の看護師さんの食事は残す。というような事が起こる。そのためにはオープンクエスチョン（開かれた質問をする）により相手の考えを具体的に知ることや、タッチング（手や肩など一番心地よい場所に触れる）により緊張の緩和を促しコミュニケーションを図るといった手法が用いられる。ロータリーの奉仕の精神が介護・看護の心や職業奉仕につながるのではないかと最後に締めくくった。

◆越智大輔会員(フォーラム)：「人生 100 年時代－超高齢化社会への対応について」各団塊の介護経験者 10 名による発表が行われ、当今治 RC からは重松会員が参加された。介護には大きなパワーが必要、体力面だけではなく感情的な部分も非常に大切。介護の辛さ・苦しみ・過酷さなどの体験報告が大半を占める中、重松会員から介護を通じて、今まで疎遠になりがちだった家族や親戚とのつながりが深まる事もあったと、明るく前向きな話題が提供された。認知症の予防策として歯が良い人は認知症になりにくい。その逆に社会との交わりがなくなれば認知症は一気に進む。だからこそ、年を重ねてもロータリークラブを続けることが大切！との意見も出た。最後に講師の伴野先生が「介護の苦しみ、辛さの向こうに喜びがあるかもしれない！」と締めくくり盛況のまま終了した。

次 回 例 会（2月２７日）

【 ロータリー創立記念例会 】

＜配偶者誕生祝＞　辰巳　和久氏（2/28）
＜結婚記念日祝＞　近藤　正人氏（3/4）
＜入会記念日祝＞　平田　勝豪氏（3/1）　西信　正男氏（3/2）

〔 俥屋 〕